

(様式第 9)



番 号  
平成 25 年 10

関東信越厚生局長 殿

開設者名 学校法人 聖マリアンナ  
理事長 明石 勝

聖マリアンナ医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 の規定に基づき、平成 24 年度の業務  
に関して報告します。

記

- 1 高度の医療の提供の実績 → 別紙参照(様式第 10)
- 2 高度の医療技術の開発及び評価の実績 → 別紙参照(様式第 11)
- 3 高度の医療に関する研修の実績

研修医の人数	74	人
--------	----	---

(注) 前年度の研修医の実数を記入すること。

- 4 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の体系的な管理方法  
→ 別紙参照(様式第 12)
- 5 診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び閲覧の実績
- 6 他の病院又は診療所から紹介された患者に対する医療提供の実績  
→ 別紙参照(様式第 13)
- 7 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職種	常勤	非常勤	合計	職種	員数	職種	員数
医師	537人	8人	545人	看護補助者	133人	診療エックス線技師	人
歯科医師	人	人	人	理学療法士	20人	臨床検査技師	91人
薬剤師	74人	人	74人	作業療法士	8人	衛生検査技師	人
保健師	89人	人	89人	視能訓練士	9人	その他	13人
助産師	39人	人	39人	義肢装具士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看護師	857人	46人	876.5人	臨床工学技士	26人	医療社会事業従事者	9人
准看護師	4人	1人	4.5人	栄養士	2人	その他の技術員	50人
歯科衛生士	人	人	人	歯科技工士	人	事務職員	268人
管理栄養士	14人	人	14人	診療放射線技師	61人	その他の職員	2人

- (注) 1 報告を行う当該年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。  
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。  
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

- 8 入院患者、外来患者及び調剤の数  
 歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	859.25 人	人	859.25 人
1日当たり平均外来患者数	2,394.01 人	人	2,394.01 人
1日当たり平均調剤数			1,445.6 剤

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療科を受診した患者数を記入すること。  
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。  
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。  
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。





## 高度の医療の提供の実績

## 3 その他の高度の医療

医療技術名	経胎盤的抗不整脈薬投与療法(平成25年度申請予定)	取扱患者数	人
当該医療技術の概要	本治療は入院、24時間の安全性管理のもとで行われる。まず、胎児心エコーにて、上室性頻脈、心房粗動等の頻脈性不整脈の分類を行う。各胎児診断と胎児水腫の有無により、抗不整脈薬であるジゴキシン、ソタロール、フレカイニド又はその組み合わせの中から使用薬剤及び投与量を選択する。胎児心拍モニタリング下で、母体に対し経口又は経静脈的に抗不整脈薬を投与し、胎盤を介した胎児への効果を期待する。胎児頻脈性不整脈(胎児の心拍数が毎分百八十以上で持続する心房粗動又は上室性頻拍に限る。)		
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(様式第10)

### 高度の医療の提供の実績

#### 4 特定疾患治療研究事業対象疾患についての診療

疾患名	取扱患者数	疾患名	取扱患者数
・ベーチェット病	427人	・膿疱性乾癬	13人
・多発性硬化症	117人	・広範脊柱管狭窄症	1,901人
・重症筋無力症	166人	・原発性胆汁性肝硬変	419人
・全身性エリテマトーデス	1,532人	・重症急性膵炎	14人
・スモン	3人	・特発性大腿骨頭壊死症	105人
・再生不良性貧血	155人	・混合性結合組織病	212人
・サルコイドーシス	268人	・原発性免疫不全症候群	3人
・筋萎縮性側索硬化症	25人	・特発性間質性肺炎	32人
・強皮症、皮膚筋炎及び多発性筋炎	841人	・網膜色素変性症	73人
・特発性血小板減少性紫斑病	165人	・プリオン病	1人
・結節性動脈周囲炎	132人	・肺動脈性肺高血圧症	209人
・潰瘍性大腸炎	441人	・神経線維腫症	38人
・大動脈炎症候群	64人	・亜急性硬化性全脳炎	0人
・ビュルガー病	298人	・バッド・キアリ(Budd-Chiari)症候群	4人
・天疱瘡	113人	・慢性血栓塞栓性肺高血圧症	19人
・脊髄小脳変性症	150人	・ライソゾーム病	2人
・クローン病	151人	・副腎白質ジストロフィー	1人
・難治性の肝炎のうち劇症肝炎	2人	・家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	110人
・悪性関節リウマチ	160人	・脊髄性筋萎縮症	5人
・パーキンソン病関連疾患(進行性核上性麻痺、 大脳皮質基底核変性症及びパーキンソン病)	1,704人	・球脊髄性筋萎縮症	7人
・アミロイドーシス	108人	・慢性炎症性脱髄性多発神経炎	45人
・後縦靭帯骨化症	106人	・肥大型心筋症	221人
・ハンチントン病	3人	・拘束型心筋症	1人
・モヤモヤ病(ウイリス動脈輪閉塞症)	31人	・ミトコンドリア病	2人
・ウェゲナー肉芽腫症	101人	・リンパ脈管筋腫症(LAM)	0人
・特発性拡張型(うっ血型)心筋症	169人	・重症多形滲出性紅斑(急性期)	50人
・多系統萎縮症(線条体黒質変性症、オリブ橋 小脳萎縮症及びシャイ・ドレーガー症候群)	47人	・黄色靭帯骨化症	39人
・表皮水疱症(接合部型及び栄養障害型)	4人	・間脳下垂体機能障害 (PRL分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH 分泌異常症、下垂体性TSH分泌異常症、クッシング病、 先端巨大症、下垂体機能低下症)	1,285人

(注) 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第10)

高度の医療の提供の実績

5 健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・抗悪性腫瘍剤感受性検査 (H2404)	・
・超音波骨折治療法 (H2404)	・
・腹腔鏡下直腸脱手術 (H2404)	・
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離 (H2404)	・
・乳がんセンチネルリンパ節加算 (H2204)	・
・センチネルリンパ節生検 (H2204)	・
・椎間板摘出術(後方摘出術) (H2210) 経皮的骨形成術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注)「施設基準等の種類」欄には、業務報告を行う3年前の4月以降に、健康保険法の規定による療養に要する費用の額の算定方法(平成六年厚生省告示第五十四号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

6 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床病理検討会 3回/年 乳腺症例検討会 1回/月, 超音波症例検討会 1回/月 腎移植カンファレンス 1回/月程度(症例毎)
部 検 の 状 況	部検症例数 48 例 / 部検率 7.3%

(様式第11)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
別紙参照				
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委
				補
				委

計 66

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

2 論文発表等の実績

雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
別紙参照			

計 119

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)
- 2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第11)

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
1 K6およびK63ユビキチン鎖によるDNA修復制御機構	太田 智彦	応用分子腫瘍学	26,400,000	(補委) 文部科学省
2 休眠原始卵胞活性化技術を用いたヒト卵胞発育制御因子の解明と卵巣-卵胞培養法の確立	河村 和弘	産婦人科(産科)	3,100,000	(補委) 文部科学省
3 肺癌の組織型と遺伝子変異診断としてのイオン移動度分光測定式探知器による呼気分析	半田 寛	内科学(呼吸器・感染症内科)	700,000	(補委) 文部科学省
4 病院環境における薬剤耐性菌制御のリスクマネジメントに関する研究	國島 広之	内科学(総合診療内科)	1,200,000	(補委) (独)日本学術振興会
5 機能性RNA統合解析による米欧の胃・大腸発癌の分子疫学的解明と臨床応用・癌予防	山本 博幸	内科学(消化器・肝臓内科)	5,800,000	(補委) (独)日本学術振興会
6 肺癌の早期発見システムとしてのイオン移動度分光測定式探知器による呼気分析	宮澤 輝臣	内科学(呼吸器・感染症内科)	1,000,000	(補委) (独)日本学術振興会
7 内視鏡的肺容量減量術における、肺内気流分布評価の有用性の検討	峯下 昌道	内科学(呼吸器・感染症内科)	300,000	(補委) (独)日本学術振興会
8 メラノサイト及びメラノーマ細胞におけるBMPとMitf、RETとの相互関係	川上 民裕	皮膚科学	1,000,000	(補委) (独)日本学術振興会
9 細菌感染症の抗菌化学療法に対する宿主細胞の影響の解析	竹村 弘	微生物学	700,000	(補委) (独)日本学術振興会
10 Plk1過剰発現と抗癌剤感受性	佐藤 工	応用分子腫瘍学	1,600,000	(補委) (独)日本学術振興会
11 DNA損傷修復経路における合成致死性を応用した乳癌の化学療法に関する研究	太田 智彦	応用分子腫瘍学	5,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
12 高血圧性腎障害に特化した脂肪酸結合蛋白の機能解析	池森 敦子(上條敦子)	解剖学(機能組織)	800,000	(補委) (独)日本学術振興会
13 新資料に基づく関東地方古人骨の系譜論・生活論の再考	平田 和明	解剖学(人体構造)	1,200,000	(補委) (独)日本学術振興会
14 片側内耳破壊ラットの小脳片葉プロテオーム解析	深澤 雅彦	耳鼻咽喉科学	900,000	(補委) (独)日本学術振興会
15 7テスラMRIによるマウス内リンパ水腫の観察および分子生物学的解析	中村 学	耳鼻咽喉科学	900,000	(補委) (独)日本学術振興会
16 めまいリハビリテーションへの応用を目的とした耳石-眼反射の可塑性の検討	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学	3,800,000	(補委) (独)日本学術振興会
17 尿中マイクロRNAを指標とした非侵襲的な膀胱腫瘍の新規診断法および治療の試み	佐々木 秀郎	腎泌尿器外科学	1,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
18 移植腎の予後(線維化)を早期に決定づける因子の解明と診断への応用	力石 辰也	腎泌尿器外科学	1,500,000	(補委) (独)日本学術振興会
19 iPS細胞由来視細胞シート作成とそれを用いた網膜神経間ネットワーク構築機構の解明	上田 裕司	免疫学・病害動物学	1,400,000	(補委) (独)日本学術振興会
20 ES・iPS細胞を用いた網膜神経前駆細胞の分化機構の解析	鈴木 登	免疫学・病害動物学	200,000	(補委) (独)日本学術振興会
21 臨床治験を基盤とする糖尿病網膜症の発生機序の解明	高木 均	眼科学	1,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
22 SAM系新規緑内障モデルにおける神経特異性上皮増殖因子制御と軸索伸長機構の解明	宗正 泰成	眼科学	1,700,000	(補委) (独)日本学術振興会
23 角膜輪部における角膜幹細胞と角膜神経の関与-ニューロトロフィンに着目して-	上野 宏樹	眼科学	1,700,000	(補委) (独)日本学術振興会
24 視神経軸索障害におけるγセクレターゼとオートファジーの分子制御機構の解明	北岡 康史	眼科学	1,600,000	(補委) (独)日本学術振興会
25 アスベストの無害化処理品の生体影響における鉄・シリカ複合体の作用に関する研究	高田 礼子	予防医学(環境保健)	2,100,000	(補委) (独)日本学術振興会
26 休眠原始卵胞活性化技術を用いたヒト卵胞発育制御因子の解明と卵巣-卵胞培養法の確立	河村 和弘	産婦人科(産科)	3,600,000	(補委) (独)日本学術振興会
27 異所性妊娠モデル動物を用いた新規分子標的治療法の開発	河村 和弘	産婦人科学(産科)	1,800,000	(補委) (独)日本学術振興会
28 胎児尿路閉塞による委縮膀胱に胎児期ボツリヌス毒素を用いた効果	長江 秀樹	外科学(小児外科)	1,400,000	(補委) (独)日本学術振興会
29 食道閉鎖モデルマウスにおける責任遺伝子発現様式の三次元的解析に関する研究	佐藤 英章	外科学(小児外科)	1,000,000	(補委) (独)日本学術振興会
30 羊胎仔尿路閉塞後の腎・膀胱両機能温存型膀胱-羊水腔シャントチューブの開発	北川 博昭	外科学(小児外科)	1,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
31 親子の骨強化啓発活動の研究(骨粗鬆症の一次予防に骨量測定・栄養指導は必要か)	清水 弘之	整形外科	300,000	(補委) (独)日本学術振興会
32 中枢5-HT細胞における転写因子Pet-1の標的遺伝子・共役転写因子の網羅的探索	松井 宏晃	アイントープ研究施設	1,800,000	(補委) (独)日本学術振興会
33 国内における中小規模病院への院内急変対応の普及と症例レジストリーの確立	藤谷 茂樹	救急医学	3,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
34 高ブドウ糖環境下に於ける神経細胞・表皮細胞・線維芽細胞の機能的・形態学的解析	松崎 恭一	形成外科学	1,200,000	(補委) (独)日本学術振興会
35 スクレオフォスミン(NPM)の解析による肝細胞癌発癌機構及びその治療法の解明	榎本 武治	外科学(消化器・一般外科)	1,300,000	(補委) (独)日本学術振興会
36 敗血症に伴う重症末梢神経炎の発生機序の解明と活性化第X因子阻害薬の保護効果の検討	日野 博文	麻酔学	1,400,000	(補委) (独)日本学術振興会
37 プロテオミクスを用いた化学療法Naive患者の肝予備能障害メカニズムの解析	中野 浩	外科学(消化器・一般外科)	300,000	(補委) (独)日本学術振興会
38 N-acetylcysteineの精神病発症予防効果の検討	三宅 誕実	神経精神科学	500,000	(補委) (独)日本学術振興会
39 プロテオミクスの解析によるGABA合成酵素ノックアウトマウスのうつ病モデルの検討	藤原 圭亮	神経精神科学	1,800,000	(補委) (独)日本学術振興会
40 骨格筋損傷の修復に対するアイシングの影響と微弱電流併用効果に関する研究	藤谷 博人	スポーツ医学	1,500,000	(補委) (独)日本学術振興会
41 軟骨細胞核酸修復酵素AP-エンドヌクレアーゼ活性と軟骨変性機序の解析	油井 直子	スポーツ医学	1,600,000	(補委) (独)日本学術振興会



## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 1 研究費補助等の実績

	研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
42	非アルコール性脂肪肝炎発症におけるマクロファージ活性化の意義の解明	永井 義夫	内科学(代謝・内分泌内科)	1,200,000	(補委) (独) 日本学術振興会
43	肝内脂肪量を指標とする生活習慣病予防と健康増進を目指す食事理論の構築	田中 逸	内科学(代謝・内分泌内科)	1,300,000	(補委) (独) 日本学術振興会
44	ベーチェット病の自己抗体の解析:好中球遊走能にかかわるコフィリンに対する抗体	大岡 正道	内科学(リ・膠・ア内科)	2,400,000	(補委) (独) 日本学術振興会
45	血管炎の新規な病態関連因子ペプチドミクスによる網羅的探索と臨床的意義の基盤解析	尾崎 承一	内科学(リ・膠・ア内科)	800,000	(補委) (独) 日本学術振興会
46	HTLV-1関連脊髄症(HAM)の脊髄再生治療法開発に関する研究	山野 嘉久	難病治療研究センター	1,000,000	(補委) (独) 日本学術振興会
47	川崎病の冠動脈病変および治療不応例における病態特異的マーカーのプロテオミクス解析	唐澤 里江	難病治療研究センター	1,500,000	(補委) (独) 日本学術振興会
48	メカニカルストレスに応答する軟骨細胞核酸修復酵素活性調節機構と軟骨変性機序の解析	遊道 和雄	難病治療研究センター	1,100,000	(補委) (独) 日本学術振興会
49	原発性卵巣不全関連因子であるFMR1タンパク質の機能解析	石塚 文平	寄附講座(高度生殖医療技術開発講座)	1,200,000	(補委) (独) 日本学術振興会
50	効率的な良い卵巣組織凍結・移植法の確立を目指した研究—若年女性癌患者のために	鈴木 直	産婦人科学(婦人科)	1,300,000	(補委) (独) 日本学術振興会
51	難治性卵巣癌におけるPOU6F1を介した細胞増殖を抑制する新たな治療法の開発	吉岡 範人	産婦人科学(婦人科)	1,900,000	(補委) (独) 日本学術振興会
52	PEG-IFN $\alpha$ /RBV療法のC型肝炎治療効果を予測する新規バイオマーカーの確立	黒川 真奈絵	生化学	1,500,000	(補委) (独) 日本学術振興会
53	学習成立メカニズムの性的二型性とその分子基盤の解明	船橋 利也	生理学(細胞・器官生理)	1,200,000	(補委) (独) 日本学術振興会
54	ミクログリアの新しい生理機能:GnRHニューロン活動調節への生理的関与	明間 立雄	生理学(統合生理)	700,000	(補委) (独) 日本学術振興会
55	NSAID潰瘍のなりやすさとは? :COX2 DNAメチル化へのピロリ菌感染の関与	安田 宏	内科学(消化器・肝臓内科)	1,100,000	(補委) (独) 日本学術振興会
56	ESD症例より得た胃洗浄液は早期胃がんのメチル化マーカー探索を可能にする	渡邊 嘉行	内科学(消化器・肝臓内科)	500,000	(補委) (独) 日本学術振興会
57	脂肪酸結合蛋白の発現増強による腎疾患治療薬としての可能性	横山 健	内科学(腎臓・高血圧内科)	700,000	(補委) (独) 日本学術振興会
58	急性および慢性腎臓病に対する新規腎疾患治療法の確立	松井 勝臣	内科学(腎臓・高血圧内科)	1,700,000	(補委) (独) 日本学術振興会
59	扁平上皮癌の分子病態:表皮イノシトール脂質代謝経路のシステム破壊とその制御	河村 七美	産婦人科学	1,500,000	(補委) (独) 日本学術振興会
60	多次元医用画像と深部情報可視化映像によるリアルタイム手術支援システムの開発	佐治 久	外科学(呼吸器・外科)	2,000,000	(補委) (独) 日本学術振興会
61	妊娠期から行う児童虐待予防のための介入法構築に関する研究	水主川 純	産婦人科学	1,800,000	(補委) 厚生労働省
62	CKD進展予防のための特定健診と特定保健指導のあり方に関する研究	木村 健二郎	内科学(腎臓・高血圧内科)	5,390,000	(補委) 厚生労働省
63	関節リウマチ発症因子シノビオリンからみた慢性炎症機構の解析	佐藤 知雄	難病治療研究センター	2,308,000	(補委) 厚生労働省
64	HTLV-1関連脊髄症(HAM)の新規医薬品開発に関する研究	山野 嘉久	難病治療研究センター	27,000,000	(補委) 厚生労働省
65	再発性多発軟骨炎の診断と治療体系の確立	鈴木 登	免疫学・病害動物学	3,000,000	(補委) 厚生労働省
66	治験の実施に関する研究「自家培養表皮」	相原 正記	形成外科学	800,000	(補委) 公益社団法人 日本医師会

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

## 高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

## 2 論文発表等の実績

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
1	乳癌の臨床	乳癌の術前化学療法例におけるセンチネルリンパ節生検の病理学的検討	立石 文子	診断病理
2	MEDICAL ULTRASONICS	The value of dynamic imaging for standardization of abdominal ultrasonography	Sachiyo Inamura	総合診療内科
3	日本病院総合診療医学会雑誌	大学病院総合診療内科において入院精査を行った発熱患者の診断に関する検討	鳥飼圭人	総合診療内科
4	日本病院総合診療医学会雑誌	総合診療内科におけるリンパ節生検16例の検討	中谷 信一	総合診療内科
5	Bronchol Intervent Pulmonol	New Technique for Endobronchial Ultrasound-guided Transbronchial Needle Aspiration to Improve Diagnostic Yield	Takeo Inoue	Department of Internal Medicine, Division of Respiratory and Infections Disease, St. Marianna University School of Medicine (呼吸器内科)
6	Regenerative Medicine	Cell therapy with adipose tissue-derived stem/stromal cells for elastase-induced pulmonary emphysema in rats	Naoki Furuya	呼吸器・感染症内科
7	Arch Med Sci	Association between heart rate at rest and myocardial perfusion in patients with acute myocardial infarction undergoing cardiac rehabilitation—a pilot study	Mariko Uematsu	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
8	Journal of Cardiology	Relationship between left ventricular ejection fraction and mitral annular displacement derived by speckle tracking echocardiography in patients with different heart diseases	Kengo Suzuki	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
9	Heart International	Influence of image acquisition settings on radiation dose and image quality in coronary angiography by 320-detector volume computed tomography: the CORE320 pilot experience.	Kihei Yoneyama	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
10	Jpn. J. Clin. Physiol	Significance of Health Checks for the Elderly	Ken Kongioji	循環器内科
11	Cardiology	Stress-Induced Cardiomyopathy	Yoshihiro Akashi	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
12	Circ Cardiovasc Imaging	Non-Circular Shape of Right Ventricular Outflow Tract A Real-Time 3-Dimensional Transesophageal Echocardiography Study	Masahiro Izumo	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
13	Circulation	Age, Sex, and Hypertension-Related Remodeling Influences Left Ventricular Torsion Assessed by Tagged Cardiac Magnetic Resonance in asymptomatic Individuals The Multi-Ethnic Study of Atherosclerosis	Kihei Yoneyama	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
14	Heart Lung and Circulation	Sleep Disordered Breathing in Heart Failure Patients with Reduced versus Preserved Ejection Fraction	Hiromitsu Sekizuka	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
15	Journal of Echocardiography	Early diastolic function during exertion influences exercise intolerance in patients with hypertrophic cardiomyopathy	Kei Mizukoshi	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
16	Am J Cardiol	Comparison of Real-Time Three-Dimensional Transesophageal Echocardiography to Two-Dimensional Transesophageal Echocardiography for Quantification of Mitral Valve Prolapse in Patients With Severe Mitral Regurgitation	Masahiro Izumo	循環器内科 Division of Cardiology, Department of Internal Medicine
17	Tumor Biol.	Characterization of DNA hypermethylation in two cases of peritoneal mesothelioma	Hama Ryota	Gastroenterology and Hepatology (消化器肝臓)
18	Tumour Biology	Hypermethylation of Sox17 gene is useful as a molecular diagnostic application in early gastric cancer	Oishi Yoshichika	Gastroenterology & Hepatology (消化器肝臓)
19	Journal of St.Marianna University	Stricter Control of Alanine Transaminase by Longterm Administration of Glycyrrhizin Counters the Disease Progression in Patients with Chronic Hepatitis C	Matsunaga Kotaro	Gastroenterology & Hepatology (消化器肝臓)
20	World Journal of Gastroenterology	Evaluation of magnifying colonoscopy in the diagnosis of serrated polyps	Ishigooka Shinya	Gastroenterology & Hepatology (消化器肝臓)
21	World Journal of Gastroenterology	Gastrointestinal stromal tumor presenting with prominent calcification	Izawa Naoki	Gastroenterology & Hepatology (消化器肝臓)
22	Hepatology Research	Serum peptides, represented by complement 3f des-arginine, are useful for prediction of the response to pegylated interferon- $\alpha$ plus ribavirin in patients with chronic hepatitis C	Noguchi Yohei	Gastroenterology and Hepatology (消化器肝臓)
23	Hepatology Research	Changes in levels of hepatitis B virus markers in patients positive for low-titer hepatitis B surface antigen	Okuse Chiaki	Gastroenterology and Hepatology (消化器肝臓)
24	Journal of Gastroenterology	Pathophysiological analysis of nonalcoholic fatty liver disease by evaluation of fatty liver changes and blood flow using xenon computed tomography: can early-stage nonalcoholic steatohepatitis be distinguished from simple	Shigefuku Ryuta	Gastroenterology and Hepatology (消化器肝臓)
25	Journal of Gastroenterology	Xenon computed tomography can evaluate the improvement of hepatic hemodynamics before and after endoscopic injection sclerotherapy	Takahashi Hideaki	Gastroenterology and Hepatology (消化器肝臓)
26	聖マリアンナ医科大学雑誌	肝細胞癌におけるGPC3の細胞内局在に関する免疫組織学的検討	公文大輔	消化器・肝臓内科
27	Progress of Digestive Endoscopy	ERCP時のスコープ挿入に伴う偶発症の検討	末谷敬吾	消化器・肝臓内科
28	Endocrine Journal	Effect of the $\alpha$ -Glucosidase Inhibitor Miglitol on the Glucose Profile in Japanese Type 2 Diabetic Patients Receiving Multiple Daily Insulin Injections	Kato Hiroyuki	Metabolism and Endocrinology (代謝内分泌)
29	Japanese Journal of Clinical Physiology	Effect of combination therapy with losartan and low-dose hydrochlorothiazide for albuminuria on the patients with type 2 diabetes mellitus	Akihiko Kondo	Metabolism and Endocrinology (代謝内分泌)
30	PLoS One	A Single Nucleotide Polymorphism within DUSP9 Is Associated with Susceptibility to Type 2 Diabetes in a Japanese Population	Fukuda H	Metabolism and Endocrinology (代謝内分泌)
31	Journal of Diabetes Investigation	Efficacy and Safety of Liraglutide in Patients with Type2 Diabetes:The SEDIK Study	Takehiro Kawata	Metabolism and Endocrinology (代謝内分泌)
32	Endocrine Journal	Comparison of daily glucose excursion by continuous glucose monitoring between type 2 diabetic receiving preprandial insulin aspart or postprandial insulin glulisine	Ohta Akio	代謝・内分泌内科
33	Diabetology International	Clinical Effects of Liraglutide on Diabetes Control in Japanese Type 2 Diabetes Mellitus Patients	Takehiro Kawata	代謝・内分泌内科
34	J.Stroke Cerebrovasc.Dis.	Prediction of Thrombolytic Therapy after Stroke-Bypass Transportation: The Maria Prehospital Stroke Scale Score.	Hasegawa Y	神経内科
35	Pain Pract	Migraine Treated Using a Prophylactic Combination of Candesartan and Hydrochlorothiazide (ECARD® Combination Tablets LD)	Akiyama H	神経内科
36	J.Stroke Cerebrovasc.Dis.	Knowledge of transient ischemic attack among the Japanese. (ECARD® Combination Tablets LD)	Hisanao Akiyama	神経内科
37	救急医学	脳卒中地域診療体制の現状と展望	長谷川泰弘	神経内科
38	医学と薬学	神経・筋疾患の病態と診断・治療(Ⅱ)「側頭動脈炎」	長谷川泰弘	神経内科
39	BRAIN	Telestroke脳卒中に特化した遠隔医療	長谷川泰弘	神経内科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
40	Diabetes Frontier	脳卒中の急性期治療と血糖管理	長谷川泰弘	神経内科
41	日本内科学会雑誌	t-PA時代の脳梗塞診療	長谷川泰弘	神経内科
42	医学と薬学	全自動臨床検査システムSTACIAによるANCA測定の臨床的有用性	永渕裕子	リウマチ膠原病アレルギー内科
43	Inflammation and Regeneration	The effects of hinokitiol on human cells revealed by a proteomic approach	Seido Ooka	リウマチ膠原病アレルギー内科
44	The Journal of Rheumatology	Recombinant Human Soluble Thrombomodulin for Treatment of Thrombotic Microangiopathy Associated with Lupus Nephritis	Kumiko Tonooka	リウマチ膠原病アレルギー内科
45	Modern Rheumatology	Hypoxia-induced endogenous prostaglandin E2 negatively regulates hypoxia-enhanced aberrant overgrowth of rheumatoid synovial tissue	Hirofumi Mitomi	リウマチ膠原病アレルギー内科
46	Modern Rheumatology	Cutaneous polyarteritis nodosa associated with HLA-B39-positive undifferentiated spondyloarthritis in a Japanese patient.	Hiromasa Nakano	リウマチ膠原病アレルギー内科
47	Modern Rheumatology	Severity-based treatment for Japanese patients with MPO-ANCA-associated vasculitis: the JMAAV study.	Ozaki S	リウマチ膠原病アレルギー内科
48	Annals of Vascular Diseases	Novel strategy for the treatment of refractory vasculitis syndrome	Yamada H.	リウマチ膠原病アレルギー内科
49	Clinical and Experimental Nephrology	Clinical trial for Japanese patients with myeloperoxidase anti-neutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis: the JMAAV study	尾崎承一	リウマチ膠原病アレルギー内科
50	Clinical Schizophrenia & Related Psychoses	New serotonin/dopamine antagonists for the treatment of schizophrenia: are we making real progress?	三宅 誕実	神経精神科学
51	Molecular Psychiatry	Pharmacological treatment of schizophrenia: an update and critical review of the pharmacology and clinical profiles of current and future therapeutic agents.	宮本 聖也	神経精神科学
52	Current Opinion in Psychiatry	Alternative pharmacologic targets for the treatment of schizophrenia: Results from phase I and II trials.	宮本 聖也	神経精神科学
53	The Pediatric Infectious Disease Journal	Treatment of pyelonephritis caused by extended-spectrum $\beta$ -lactamase-producing Enterobacteriaceae in	Katsuta Tomohiro	小児科学
54	Infectious Diseases Society of America	Safety and Effectiveness of Post-exposure Prophylaxis with Valacyclovir against Varicella Exposures in Pediatric	Katsuta Tomohiro	小児科学
55	血栓止血誌	ステロイドパルス治療家兎モデル実験における顕著なトロンビン生成能の上昇	足利朋子	小児科学
56	Pediatr Int	T-cell large granular lymphocyte leukemia in a child with anemia and Crohn's disease.	Kondoh Kensuke	小児科学
57	日本小児血液・がん学会雑誌	Mixed-lineage leukemia-partial tandem duplicationを持つ急性骨髄性白血病細胞株におけるヒストン脱アセチル化酵素阻害薬の抗腫瘍効果の検討	慶野 大	小児科学
58	MEDICAL ULTRASONICS	Sonographic characterization of 271 hepatic hemangiomas with typical appearance on CT imaging	Hiroaki Ito	消化器・一般外科
59	日本消化器外科学会雑誌	成人膿瘍形成性虫垂炎に対するLaparoscopic interval appendectomy(LIA)の治療戦略	小林慎二郎	消化器・一般外科
60	Journal of St.Marianna University	Hyperbaric Oxygen Enhances the Effect of Anti-cancer Durg on Colon Cancer Spheroid	Kenji Nishio	消化器・一般外科
61	Journal of St.Marianna University	Changes in Plasma Ghrelin and Leptin Levels in Relation to Body Weight after Gastrectomy	Hiroyuki Negishi	消化器・一般外科
62	Japanese Journal of Acute Care Surgery	日本外傷学会脾損傷分類Ⅲb型(鈍的)の3例	小泉哲	消化器・一般外科
63	Journal of St.Marianna University	Compensatory Mechanisms of Ghrelin Production and Secretion after Gastrectomy	Taro Hamabe	消化器・一般外科
64	日本腹部救急医学会雑誌	当院における外傷性脾・十二指腸損傷症例に関する検討	小泉哲	消化器・一般外科
65	日本腹部救急医学会雑誌	特集:腹腔内臓器損傷(肝を除く)の治療戦略 脾損傷に対する治療戦略	小林慎二郎	消化器・一般外科
66	外科	V.肝・胆・脾・脾の手術 2.肝区域切除に必要な局所解剖 —Glisson鞘一括処理による肝切除—	大坪毅人	消化器・一般外科
67	Annals of SURGICALONCOLOGY	Oncologic Outcomes of Laparoscopy-Assisted Distal Gastrectomy for Gastric Cancer	Tetsu Fukunaga	消化器・一般外科
68	Annals of Vascular Diseases	Surgical Treatment or Conservative Therapy for Stanford Type A Acute Aortic Dissection with a Thrombosed False Lumen	Takashi Ando	Department of Cardiovascular Surgery(心外)
69	Pediatric Surgery International	Noninvasive acoustic radiation force impulse(ARFI) elastography for assessing the severity of fibrosis in the post-operative patients with biliary atresia.	Hideki Shima	小児外科

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
70	Pediatric Surgery International	The long-term prognosis of two-flap anoplasty for mucosal prolapse following anorectoplasty for anal atresia.	Hideaki Sato	小児外科
71	Journal of Pediatric Surgery	Relapse of unilateral favorable histology Wilms' tumor: Significant clinicopathological factors.	Aoba Takeshi	小児外科
72	Brain Research	Analysis of intracranial pressure pulse waveform and brain capillary morphology in type 2 diabetes mellitus rats.	Hidetaka Onodera	Neurosurgery(脳神経外科)
73	Journal of Clinical Neuroscience	Use of a micromanipulator system (NeuroRobot) in endoscopic neurosurgery	Hiroshi Takasuna	Neurosurgery(脳神経外科)
74	脳神経外科ジャーナル	傍突起部内頸動脈瘤の発育方向とコイル塞栓術の治療結果	伊藤英道	脳神経外科一般
75	神経外傷	抗血小板薬あるいは抗凝固薬服用者の外傷性急性硬膜下血腫の検討	榊原陽太郎	脳神経外科一般
76	Hand Surgery	Effect on Bone Union and Prevention of Tendon Adhesion by New Porous Anti-Adhesive Poly L-lactide-co-e-Caprolactone Membrane in a Rabbit model.	Takuya Sato	整形外科科学
77	骨折	橈骨遠位端AOC3骨折における骨片数と荷重分散の検討	泉山公	整形外科科学
78	Hand Surgery	The Carpal stretch test at the Rheumatoid wrist.	Hiroyuki Shimizu	整形外科科学
79	Hand Surgery	Clinical outcomes of hook of hamate fractures and usefulness of the hook of hamatepull test.	Hiroyuki Shimizu	整形外科科学
80	J Orthopaedic Science	Validity and reliability of a self-administered foot evaluation questionnaire(SAFE-Q).	Hisateru Niki	整形外科科学
81	Inflammation & Regeneration	Novel anti-citrullinated peptide autoantibodies identified by proteomics with <i>in vitro</i> citrullinated proteins in patients with rheumatoid arthritis.	Mitsui H	整形外科科学
82	J. Phamacol. Sci.	Specific enhancement of vascular endothelial growth factor(VEGF)	Inoue.H	形成外科学
83	Arch Dermatol Res	The clock gene brain and muscle Arnt-like protein-1(BMAL1) is involved in hair growth	Inoue.H	形成外科学
84	Acta Dermato-Venereologica	Serum Anti-lysosomal-associated Membrane Protein-2 Antibody Levels in Cutaneous Polyarteritis Nodosa	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
85	Journal of dermatological Science	Tyrosinase-related protein1 in mouse melanocytes at early embryonic stage	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
86	Dermatology Research and Practice	Disease Severity Indexes and Treatment Evaluation Criteria in Vitiligo	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
87	Australasian Journal of Dermatology	Low-dose cyclosporin improves the health-related quality of life in japanese psoriasis patients dissatisfied with topical corticosteroid monotherapy	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
88	Journal of dermatological Science	Health-related quality of life assessed by the effect of bepotastine besilate in patientsb with pruritus: Importance of emotions score in atopic dermatitis.	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
89	British of Journal Dermatology	Elevated antilyosomal-associated membrane protein-2 antibody levels in patients with adult Henoch-Schonlein purpura.	Tamihiro Kawakami	Department of Dermatology
90	PloS One	Promotion of Human Early Embryonic Development and Blastocyst Outgrowth In Vitro Using Autocrine/Paracrine Growth Factors	Kazuhiro Kawamura	産婦人科学
91	Human Cell	Heat shock protein 27 and p16 immunohistochemistry in cervical intraepithelial neoplasia and squamous cell	Tozawa-Ono A	産婦人科学
92	Human Reproduction	Assessment of long-term function of heterotopic transplants of vitrified ovarian tissue in cynomolgus	Nao Suzuki	産婦人科学婦人科
93	International Journal of Clinical Oncology	Combination of irinotecan (CPT-11) and nedaplatin (NDP) for recurrent patients with uterine cervical cancer.	Ohara T	産婦人科学
94	Human Cell	Pathogenesis of Hand-Foot Syndrome induced by PEG-modified liposomal Doxorubicin	Yokomichi N	産婦人科学
95	Human Cell	Proteomic analysis of differential protein expression by brain metastases of gynecological malignancies.	Yoshida A	産婦人科学
96	Plos One	N-butyl cyanoacrylate is very effective for massive haemorrhage during perinatal period	Suguru Igarashi	産婦人科学
97	日本眼科学会雑誌	ステロイド緑内障に対するselective laser trabeculoplastyの有効性	徳田直人	眼科学
98	Case Rep Ophthalmol	Imaging of a Severe Case of Acute Hydrops in a Patient with Keratoconus Using Anterior Segment Optical Coherence Tomography.	Hiroki Ueno	眼科学
99	眼科手術	ぶどう膜炎続発緑内障に対する術前ステロイド投与の有効性	金成真由	眼科学

	雑誌名	題名	発表者氏名	所属部門
100	Front Cell Neurosci	Molecular mechanisms of retinal ganglion cell degeneration in glaucoma and future prospects for cell body and axonal protection.	Yasunari Munemasa	眼科学
101	PLoS One	The neuronal EGF-related gene Nell2 interacts with Macf1 and supports survival of retinal ganglion cells after optic nerve injury.	Yasunari Munemasa	眼科学
102	Invest Ophthalmol Vis Sci	Axonal protection via modulation of the amyloidogenic pathway in tumor necrosis factor-induced optic	kaori kojima	眼科学
103	Equilibrium Res	振子用回転検査を用いた体性感覚入力の影響の検討	北島 明美	耳鼻咽喉科学
104	耳鼻咽喉科臨床	口腔底巨大表皮嚢胞の2例	斎藤善光	耳鼻咽喉科学
105	耳鼻咽喉科臨床	体性感覚入力をういためまいリハビリテーション	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学
106	Medical Practice	良性発作性頭位めまい症	肥塚 泉	耳鼻咽喉科学
107	Equilibrium Res	移動画像に対する前庭眼反射の適応現象	加藤 弓子	耳鼻咽喉科学
108	Japanese Journal of Diagnostic Imaging	Imaging anatomy of the facial superficial structures and imaging descriptions of facial aging.	Itsuko okuda	放射線医学
109	J Vasc Surg	Two cases of tracheoinnominate artery fistula following tracheostomy treated successfully by endovascular embolization of the innominate artery	Hamaguchi S	放射線医学
110	Aesthetic Plast Surg	Using multidetector row computed tomography to evaluate baggy eyelid	Okuda I	放射線医学
111	J Minim Invasive Gynecol	A case of retained placenta increta successfully treated via uterine arterial embolization using N-butyl 2-	Hamaguchi S	放射線医学
112	Act Radiol	Bilateral approach of redistributed subclavian arterial infusion chemotherapy for locally advanced breast cancer spreading to the contralateral chest wall	Koike Y	放射線医学
113	Emerg Radiol	Internal hernia through the foramen of Winslow: the "narrowed portal vein" sign on abdominal CT	Yamashiro T	放射線医学
114	J Data Mining in Genomics &	Progress and Clinical Applications in Proteomics.	Karasawa R.	難病治療研究センター
115	J Data Mining in Genomics &	Validation of a New Biomarker in Patients with Kawasaki Disease Identified by Proteomics.	Karasawa R.	難病治療研究センター
116	Front Microbiol	Clinical pathophysiology of human T-lymphotropic virus-type1-associated myelopathy/tropical spastic paraparesis.	Yamano Y.	難病治療研究センター
117	Modern Rheumatology	The Japanese version of the 2010 American College of Rheumatology Preliminary Diagnostic Criteria for Fibromyalgia and the Fibromyalgia Symptom Scale:	Yamano Y.	難病治療研究センター
118	Int. J. Mol. Med	RING-finger type E3 ubiquitin ligase inhibitors as novel candidates for the treatment of rheumatoid arthritis.	Yamano Y.	難病治療研究センター
119	Modern Rheumatology	Serum level of soluble triggering receptor expressed on myeloid cells-1 as a biomarker of disease activity in relapsing polychondritis	Sato T.	難病治療研究センター

計 119

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が、掲載に当たって内容審査を行っている雑誌に研究成果を原著論文として申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを100件以上記入すること(当該医療機関に所属する医師等が主たる研究者であるものに限る。)

2 「発表者氏名」欄は、1つの論文発表について発表者が複数いる場合は、主たる発表者の氏名を記入すること。

(様式第 12)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法

管理責任者氏名	病院長 幕内 晴朗		
管理担当者氏名	総務部長 松本敏男、人事部長 赤坂兼啓、事務部長 細谷実知博 薬剤部長 増原慶壮、臨床検査部長 信岡祐彦、画像センター長 栗原泰之 看護部長 高橋恵、栄養部長 川島由起子		
	保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録 病院日誌、各科診療日誌、処方せん、手術記録、看護記録、検査所見記録、エックス線写真、紹介状、退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	事務部、薬剤部 看護部、臨床検査部、画像センター メディカルサポートセンター	診療記録は平成17年8月から電子化を開始した。診療記録は1患者1カルテ方式とし、入院は10年、外来は5年の保存期間を規定としている。	
病院の管理及び運営に関する諸記録	従業者数を明らかにする帳簿	人事課	
	高度の医療の提供の実績	事務部	
	高度の医療技術の開発及び評価の実績	事務部	
	高度の医療の研修の実績	事務部	
	閲覧実績	事務部	
	紹介患者に対する医療提供の実績	メディカルサポートセンター	
入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	薬剤部		
第規一則号第一に掲げる十の十一の第一項各号及び第九の二十三第一項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全管理室	
	医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全管理室	
	医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全管理室	
	専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況	医療安全管理室	
	専任の院内感染対策を行う者の配置状況	感染制御部	
	医療に係る安全管理を行う部門の設置状況	医療安全管理室	
当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全管理室		

		保管場所	分類方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一一条の十一第一項各号及び第九条の二十三第一項第一号に掲げる体制の確保の状況	院内感染のための指針の策定状況	感染制御部
		院内感染対策のための委員会の開催状況	感染制御部
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	感染制御部
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	感染制御部
		医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	薬剤部
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
		医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
		医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	クリニカルエンジニア部
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	クリニカルエンジニア部
医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	クリニカルエンジニア部		
医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	クリニカルエンジニア部		

(注) 「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。



(様式第 13)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法及び紹介患者に対する医療提供の実績

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

閲覧責任者氏名	病院長 幕内 晴朗
閲覧担当者氏名	事務部長 細谷 実知博
閲覧の求めに応じる場所	事務部 管理課

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数		延	2 件
閲覧者別	医 師	延	件
	歯 科 医 師	延	件
	国	延	1 件
	地方公共団体	延	1 件

○紹介患者に対する医療提供の実績

紹介率	60.9%	算定期間	平成24年4月1日～平成25年3月31日
算出根拠 A: 紹介患者の数			18,745人
B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数			17,654人
C: 救急用自動車によって搬入された患者の数			2,079人
D: 初診の患者の数			45,561人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、B、Cの和をBとDの和で除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。  
2 A、B、C、Dは、それぞれの延数を記入すること。

(様式第 13-2)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号及び第 9 条の 23 第 1 項第 1 号に掲げる体制の確保の状況

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療安全管理指針 平成12年4月1日策定 平成15年9月29日改正 平成16年3月1日改正 平成20年2月1日改正 平成21年1月1日改正 平成22年4月1日改正 平成23年5月1日改正 平成24年4月1日改正 平成25年4月1日改正</li><li>・ 指針の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1. 基本理念</li><li>2. 用語の定義</li><li>3. 委員会、組織</li><li>4. マニュアルの整備</li><li>5. 職員研修</li><li>6. 報告制度</li><li>7. インシデント・アクシデントの診療記録記載</li><li>8. 医療事故等発生時の対応</li><li>9. 患者からの相談への対応</li><li>10. 指針の閲覧および医療従事者と患者との情報共有</li><li>11. 指針の改訂</li></ol></li></ul>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	
<ol style="list-style-type: none"><li>1. 医療安全対策委員会（平成24年度 年12回開催 内訳：定例11回 臨時1回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者 医療機器安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、感染制御部長を含む 医師12名、看護師2名、薬剤師1名、管理栄養士1名、臨床検査技師1名、事務職1名で 構成</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 医療安全に係る事項の審議<ul style="list-style-type: none"><li>* 医療安全管理に係る基本方針</li><li>* リスクマネージャー会議・医療安全管理室からの報告事項に関すること</li><li>* 医療安全対策の立案・実施に関すること</li><li>* 医療安全推進に関すること</li></ul></li><li>2) 事故発生時の対応<ul style="list-style-type: none"><li>* 事故報告書（アクシデント・合併症・バリエーション報告書）の確認</li><li>* 患者・家族、マスコミに対する病院としての対応策の検討</li></ul></li><li>3) 医療安全管理室への改善策等の提言</li></ol></li></ul></li><li>2. リスクマネージャー会議（年12回）<ul style="list-style-type: none"><li>・ 人員構成：医療安全対策担当副院長、医療安全管理室長、医療安全管理者を含む リスクマネージャー（医師41名、看護師36名、技術職17名、事務職10名）</li><li>・ 活動の主な内容：<ol style="list-style-type: none"><li>1) 当院のインシデント・アクシデント事例の共有</li><li>2) 事故の発生要因分析と対策の検討とその評価</li><li>3) マニュアル、事故防止対策の実施状況および評価</li></ol></li></ul></li></ol>	

## ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況

平成24年度 48回

## 1) 全職員対象

回数・内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳					参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	病院職員以外	
第1回 救急蘇生法と コードブルー	本講演：4/23, 5/8 ビデオ講演： 5/17,18,22,23 17:30～18:15 12:15～13:00 ビデオ貸出：6/12 ～7/13	小山 泰明先生 (当院救命救急 センター医師)	全職員	481	878	347	508	3	2217 人
第3回 転倒防止のために 知ってほしいこと	本講演：8/30, 9/4 ビデオ講演： 9/18,21,24,26 17:30～18:30 12:15～13:15 ビデオ貸出：10/1 ～10/30	森尾 裕志先生 (当院リハビリ テーション部 主事)	全職員	486	828	326	425	73	2138 人
第4回 医療安全の日	本講演：11/26 ビデオ講演： 12/5, 7, 17, 20 17:30～18:30 12:15～13:15 ビデオ貸出： 12/21～1/29	津川 浩一郎先 生(当院乳腺外 科部長) 増原 慶壮先生 (当院薬剤部 長) 田中 雄一郎先 生(当院脳神経 外科部長)	全職員	504	842	310	272	17	1945 人

		齊藤 京子先生 (当院看護部 副部長)								
第5回 重大医療事故 発生想定訓練	本講演：1/28 ビデオ講演： 2/5,6,12,14,18 17:30～18:30 12:15～13:15 ビデオ貸出：2/19 ～3/8		全職員	458	721	313	215	50	1757 人	
KYT 研修会 基礎編	5/24、6/22、 7/23、9/19、 2/25	竜トシ子 (当院医療安全 管理者) 井上浩子 (当院医療安全 管理室師長)	全職員	2	54	3	2	1	62人	
KYT 研修会 実践編	7/30、9/25	竜トシ子 (当院医療安全 管理者) 井上浩子 (当院医療安全 管理室師長)	全職員		13				13人	

参加者合計 8,132人

職員一人当たり 3.43回 / 年

## 2) 対象者限定

内容	開催日時	講師名	対象者	職種内訳					参加人数
				医師	看護師	その他有資格者	事務員	病院職員以外	
医療安全研修	4月8日	竜 トシ子 (当院医療安全管理者)	研修医	45					45人
第1回 中途入職者研修	7/2,7/4	竜 トシ子 (当院医療安全管理者)	中途入職者	1	18	3	20		42人
第2回 中途入職者研修	11/1,11/6	竜 トシ子 (当院医療安全管理者) 井上 浩子 (当院医療安全管理室師長)	中途入職者	4	6	2	19		31人
第3回 中途入職者研修	2月28日	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	中途入職者	4		1	6		11人
新RM対象研修	5/21,5/29	竜トシ子 (当院医療安全管理者)	新リスクマネージャー	13	1	5	1		20人
救命処置の院内研修	4/19,4/24		医師・看護師を除く 全有資格者 (すでにBLS、 ICLS,ER-CORE 受講者は対象外)			22			22人

新人看護師研修	8/1,8/2, 8/9	井上 浩子 (当院医療安全管理室師長)	新人看護職員		110					110人
RM 対象研修	3月5日	平泰彦 (当院救急医学教授) 藤谷茂樹 (当院救急医学客員教授)	全リスクマネージャー	19	25	16	9			69人
フォロー研修	3月14日	藤谷茂樹 (当院救急医学客員教授)	3月13日現在6点未満者	55	71	5	22			153人
e-ラーニング研修 平成23年度 6点未満者研修	8/2~8/31		平成23年度 6点未満者							193人
e-ラーニング研修 平成23年度 6点未満者再研修	9/14~ 9/30		平成23年度 6点未満者							21人
e-ラーニング研修 平成23年度 6点未満者再々研修	10/3~ 10/9		平成23年度 6点未満者							3人

参加者合計 720人

④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容
  - 1) 侵襲的な検査での誤認防止対策としてタイムアウトを導入・実施  
 公益財団法人日本医療機能評価機構 認定病院患者安全推進協議会 検査・処置・手術安全部会からの提言「侵襲的な検査での誤認防止について」を踏まえ、放射線検査および内視鏡検査実施時にタイムアウトを導入・実施した。平成25年度版職員ハンドブックP.67「15.タイムアウトに関するチェックポイント」に明記し周知徹底を図った。
  - 2) 転倒・転落後パスの策定、運用開始(平成24年4月1日)  
 医療安全管理室およびリスクマネージャー会議 転倒・転落部会において、転倒・転落後パスを策定しトライアルを経て運用を開始した。

⑤ 専任の医療に係る安全管理を行う者の配置状況 (有) (1名) ・無

⑥ 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 (有) (8名) ・無

⑦ 医療に係る安全管理を行う部門の設置状況 (有) ・無

- ・ 所属職員： 専任10名(看護師2名、事務職員8名)  
 兼任 8名(医師5名、薬剤師1名、診療放射線技師1名、臨床工学技士1名)
- ・ 活動の主な内容：
  - 1) 事故防止に関する活動
    - \* 医療安全管理指針の周知徹底
    - \* インシデント・アクシデントレポートの集計、分析、改善策の検討・策定・評価、管理
    - \* 各部門のリスクマネージャーとの連絡調整
    - \* 医療安全に関するマニュアル、手順の作成と更新
    - \* 各部門の安全活動状況の把握(巡視)と指導
  - 2) 事故調査に関する活動
    - \* 事故発生時の調査、分析と改善策の検討・策定・評価
    - \* 事故調査委員会
  - 3) 安全教育・啓蒙活動
    - \* 安全管理に関する教育・研修の企画、運営
    - \* 至急回報、e-ラーニング研修の配信
    - \* 安全管理に関する会議の運営
  - 4) 患者相談業務
    - \* 苦情、相談の受付及び処理
    - \* 苦情、相談等に係る調査及び報告
    - \* 患者相談窓口の管理運営
    - \* 苦情、相談事案の改善、活用
    - \* メディエーターに関すること
  - 5) 紛争処理業務
    - \* 医療紛争の処理
    - \* 医療の法務・訴訟
    - \* 証拠保全等行政・司法機関からの照会等対応
    - \* 医療事故、紛争の調査
    - \* 医療ADRに関すること
  - 6) 院内警備(保安)に関すること

⑧ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 (有) ・無

(様式第 13-2)

### 院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有)・無
<p>・指針の主な内容：「医療関連感染対策指針」を作成し、院内マニュアルである「院内感染防止の手引き（第4版）」の冒頭に掲載している。指針の主な内容は以下の通りである。1. 基本理念、2. 感染管理に係る組織、委員会、3. 職員研修、教育の実施、4. 感染対策マニュアルの整備、5. 医療関連感染サーベイランスの実施、6. 適正抗菌薬療法の推進、7. 職業感染防止、8. 院内感染発生時の対応、9. 患者への情報提供と説明、10. 指針の改訂</p>	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 11回
<p>・活動の主な内容：夏期休暇を除く毎月感染委員会が開催されている。委員長は微生物学教授で、委員は感染制御部、主たる診療科医師、看護部、臨床検査部、薬剤部、病理部、事務（施設、管理、人事など）の職員で構成されている。活動の主な内容は次の通りである。1. 院内感染サーベイランスを含む疫学に関すること、2. 院内感染の発生の要因及び対応に関すること、3. 滅菌及び消毒に関すること、4. 院内感染で注意すべき微生物及びその感染防止に関すること、5. 原因微生物別感染防止対策に関すること、6. 用途別、菌種別消毒薬に関すること、7. 感染症法等で規定された感染症の届出に関すること、8. 感染症報告書に関すること、9. 労働災害上の感染措置及び取扱いに関すること、10. 院内感染防止のための検査に関すること、11. 環境微生物検査に関すること、12. 感染性廃棄物の適正処理に関すること、13. 院内感染防止マニュアルの改訂に関すること、14. 病院長からの諮問事項に関すること、15. その他、感染防止に関すること。</p>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 約25回
<p>・研修の主な内容：全職員対象の研修会を年3回開催している。それ以外に、新入職員に対する講習、看護師を対象にした講習（コース）、初期臨床研修医を対象とした講習、院内清掃業者を対象にした講習などを合計すると年間25回程度の講習会を開催している。研修の主な内容は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 院内感染の発生要因分析と改善策等の検討及びその評価</li><li>2. マニュアル、改善策等の実施状況及び効果の評価</li><li>3. 感染防止の推進に関する事項</li></ol> <p>※平成24年度研修会（全職員対象）内容：「職員全員で取り組む感染防止策」、「当院での職業感染対策について」（感染担当者意見交換会）、「感染対策リスク管理」（感染症学術講演会）</p> <p>【対象者別で行った講演会】「院内感染防止対策」、「標準予防策について」、「静脈注射」、「SSI講演会」、「血流感染予防策」、「適正抗菌薬療法と薬剤耐性菌対策について」、「ノロウイルス対策」等</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・病院における発生状況の報告等の整備 (有)・無</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 「感染症発生報告書」に基づいて行政へ報告を行い、毎月院内向けに集計・報告している。</li><li>2. 毎月診療科毎の臨床分離菌の検出状況、薬剤感受性を集計して報告している。</li><li>3. 診療科毎の抗菌薬使用状況を集計して報告している。</li><li>4. サーベイランスを実施（SSI・針刺し切創など）し、院内講習等で報告している。</li></ol> <p>・その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1. 抗MRSA薬・カルバペネム薬の使用届出制度（電子カルテによる症例の確認）</li><li>2. 細菌検査室からの報告（日報・週報）に基づいて症例毎に助言を行う。</li><li>3. ICTによる病棟ラウンド・コンサルテーションの実施</li><li>4. 当院のマニュアルである「院内感染防止の手引き」の内容の追加・変更と職員への周知</li><li>5. 「感染制御部ニュース」（ニュースレター）の発行</li></ol>	



## 医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置 (薬剤部)

① 医薬品の使用に係る安全な管理のための責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年19回
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研修の主な内容：平成24年度 医療安全職員研修会 医療安全における薬剤取り扱いの注意点について 新人看護職員技術研修 安全な与薬（薬剤師の立場から） 薬剤師による病棟研修会（癌性疼痛管理について、術前後の点眼薬の特徴と点眼指導について、採用薬の説明など）</li> </ul>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 手順書の作成 (有・無)</li> <li>・ 業務の主な内容： 医薬品保管管理・調剤・供給・情報提供・安全使用・教育研修 年3回、医薬品安全管理に関する定期巡回を実施 その回毎に重点項目を決め、保管状況、期限等を確認する</li> </ul>	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) 薬剤部内に医薬品情報室を設置し、製薬会社、DSU、PMDA、海外文献、学会誌、大学図書館より最新情報を入手し、情報提供を行っている。 また、院内で起こった副作用を収集し、薬事委員会で周知徹底している。</li> <li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 2010年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1病棟1名の、病棟担当薬剤師の配置が完了した 医師看護師等の医薬品に対する疑問への情報提供を短時間で行う 情報提供をカンファレンスや病棟会で密に行う</li> </ul> 2011年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤部以外で抗がん剤を調製する場合の手順作成</li> <li>・ MUE (Medication Use Evaluation) の実施</li> </ul> 2012年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 薬剤部から発信する医薬品に係る情報が、職員全員に周知できているか確認する為に、閲覧者リストの提出を各部署に義務付けた。</li> </ul> 2013年度 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ NICU病棟における輸液調整過誤防止目的で薬剤師が無菌輸液調製に関与する。また、手術室においても麻薬調整過誤防止目的で薬剤師がPCAポンプ調製に関与する。</li> </ul> </li> </ul>	

(様式第 13-2)

医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況	○・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 数 回
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研修の主な内容：</li><li>・ ポンプなど全部署で使用する機器に関して新入職者、新研修医を対象とした研修会を年 1 回行っている。</li><li>・ 人工呼吸器などは必要に応じ病棟単位で 1 年を通し行っている。</li><li>・ 救命センターなど特殊な機器を使用する部署には、研修医などの移動時にCHDF、PCPSなどの操作説明を行っている。</li></ul>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 計画の策定 ( ○・無 )</li><li>・ 保守点検の主な内容：</li><li>・ 中央管理機器 (人工呼吸器、シリンジポンプ、輸液ポンプ等) な使用後の終業点検と年 1 回の定期点検を行っている。</li><li>・ 病棟に設置してある除細動器などは定期的なラウンドと年 1 回の定期点検を行っている。</li></ul>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 ( ○・無 )</li><li>・ その他の改善のための方策の主な内容： 医療機器の不具合などの情報は、メーカーより事務局に集中して入るようになっていきます。 医薬品医療機器総合機構などより以下の情報を収集 1医療機器添付文章 2PMDA医療安全情報 3医療機器回収情報 収集した情報を全ての電子カルテ端末から見れるようにしている。</li></ul>	